

災害対策研修～HUGを使って避難所を体感してみよう！～

桑名市にあるNTNシティーホールにて総勢25名にて例会が実施されました。下方会長の挨拶のあと災害対策委員よりHUGについての説明が行われた。説明担当が急遽変更したにもかかわらず、突然起こりうる事象にも動じずに対応することが災害に心がけることであるとの発言に印象が残る。HUGの意味がHinango Unei Game（避難所運営ゲーム）の頭文字からきたもの、また英語で抱きしめるという意味があることに深さを感じる。

ゲーム自体は1グループ6名程度にわかれ、学校に見立てた模造紙に次々と読み上げられる避難者のカードをどう配置するか、またマスコミが来ましたやらボランティアの対応依頼といったイベントカードにどう対応するかといった流れで40分という時間で実施された。途切れることの無い避難者カードの読み上げにパニック状態の感覚を体験し、ゲームでありながら避難所運営の終わりのなき対応に実践に近い疲労感を感じた。

ゲーム後の振り返りでは、「自然と役割分担ができた」「振り返ってみるとこの対応でよかったのか疑問に感じた」「スピード感を重視してすばやく対応していった」「バスの旅行者には冷たい対応してしまった」などの意見があがり、避難所運営での模擬体験を参加者全員で感じ取れた研修であったように思う。

参加者のみなさま、災害対策委員のみなさまお疲れ様でした。



文責
医療法人 北勢会
天春 卓也

